

さけます類の人工ふ化放流に関する技術小史(飼育管理編)

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2024-08-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 野川, 秀樹, 八木沢, 功
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010489

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



さけます類の人工ふ化放流に関する技術小史 (飼育管理編)

野川秀樹・八木沢 功

放流サケ稚魚への給餌は、わが国で本格的な人工ふ化放流事業が開始された1888年頃から行われていた。その目的は、増水時における放流の回避や共食いの防止などであり、一時的なものとして行われていた。現在では、飼育期間は放流する河川の水温や降海時における沿岸環境などを考慮して数ヵ月間にわたり、放流サイズも1g以上を目標とするなど、飼育開始当初に比較して大きく変遷してきた。特に1970年代後半からは、適期放流技術の導入に伴い、適正な時期に適正なサイズで健康な稚魚を放流するための技術開発が精力的に行われ、その技術の確立と普及が今日のサケ資源の増大に大きく貢献している。本稿ではその技術開発の歴史について記述した。

水産技術, 3 (2), 67-89, 2011